

まだまだ寒さが続きますが、春に向けての種まきが始まる時期です。今回はタネについて簡単に説明します。(イラストと写真は「みんなの農業広場」HPより引用)

タネのまきかた

ばらまき



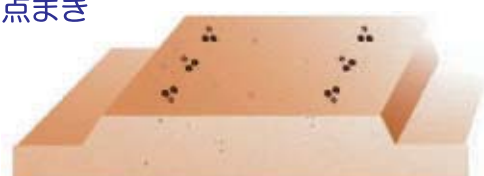
全面に平均的にまく方法です。リーフレタスや芽シソ、タマネギの苗床に用います。覆土はふるいで、種子が見えなくなる程度に均一にかけることが大切です。

すじまき



くわや板でまき溝を作り、その溝に沿って種子をまきつける方法です。ホウレンソウ、コマツナなどの葉菜類によく用います。まき溝の底が平らになるようにすることがコツです。

点まき



一定の間隔に数粒ずつまく方法で、マメ類やトウモロコシなどに用います。点まきは、芽が出た後の間引きをしやすくなります。

タネの寿命

タネには寿命があります。そのままの状態では、梅雨の時期の湿度や夏の高温などが原因になり、発芽率が悪くなってしまいます。余ったタネは茶筒やのりの空き缶などを利用して、乾燥剤を入れ、低温・低湿の状態でご保管しましょう。



残った種子は袋のまま、よく日に当てて乾燥させます。

フタをした後は、テープを巻いて密封します。

タネの処理と利用

野菜のタネの中にはそのままではまきにくいものがあり、まきやすくするために、小さな種子は球形に加工したり(コート種子)、毛のある種子は毛を取ったりします。ニンジンやホウレンソウなどでは種子を水に溶けるテープに閉じ込めたテープ(シードテープ)も利用されています。



左：普通のタネ
右：コート種子



シードテープ

宮農

インフォメーション



EINOU
information

タネについて